

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価（3月21日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①課題研究による探究する力を育成するシステム構築 ②4系、1分野の教育目標の確立と総合産業科としての特色ある教育課程の実現 ③国際理解教育と先端情報教育の基礎を身に付ける教育課程の編成	①課題研究の必修化 ②各系の教育目標・生徒育成目標の見直しと、それらを踏まえた教育課程の検討 ③国際理解教育プログラムの策定、情報教育プログラムの策定	①課題研究の教育課程への位置づけと指導体制の確立 ②各系の教育目標の策定や育てたい生徒像の具体化 ③完成年度を迎えた新教育課程の検証 ④国際理解教育プログラムの策定 ⑤情報教育プログラムの策定	①課題研究が必修科目として教育課程に位置づけられたか。 ②課題研究の指導体制が確立できたか。 ③各系の教育目標が完成できたか。また、育てたい生徒の育成状況を見るとる規準ができたか。 ④課題や問題点を洗い出し、改善の方向性を示せたか。 ⑤国際理解教育が教育課程に位置づけられたか。 ⑥情報教育の3年間での育成計画が完成したか。	①課題研究を必修科目として位置付け、生徒の充実した研究や教員による指導体制の見直しを行った。 ②これまでの教育活動を踏まえ、新たに教育目標と生徒育成目標の策定や見直しを行った。 ③新教育課程の大枠の変更は実施できなかつたが、完成年度を迎え、懸案事項や課題を検証し、生徒にとって選択幅のある教育課程編成にすることができた。 ④国際理解教育プログラムを策定した。また、国際理解教育に必要となる英語スキルの修得のため、新たに学校設定科目を教育課程に位置づけた。 ⑤D Xハイスクール事業との関連も鑑み、情報教育プログラムの策定を行つた。	①授業アンケートなどを通じて指導内容の検証を行い、研究の充実が図れる授業改善策を検討していく。 ②策定した教育目標や育成目標を整理し、教育課程への位置付けを検討する。 ③本校の特色である単位制・セメスター制特有の複雑な教育課程のため、教科やグループ業務に制約や負担がかかっている。選択科目の精選を行うなど改善が必要である。 ④策定したプログラムを実現させるために、短期・長期留学生の受け入れ体制の見直しや海外や近隣地域の学校と連携を推進する。 ⑤完成した育成計画の履修モデルにおける教育効果や教育課程編成との関連を検証する必要がある。	単位制のため、必要最低限の単位を履修する生徒がいるが、たくさんの科目があるのでしつかりした履修指導計画をお願いしたい。 「総合的な探究の時間」に注目している。大学では入学者選抜の入試方法などで生徒の探究活動についての資料を活用することがある。生徒は自己ピーチールに「総合的な探究の時間」を書くことが多いので、発表まで含めた探究活動が大学入試に直結している。	○指導体制の見直しを図り課題研究を必修科目とすることができた。 ○新たに4年間の目標を策定した。今後も生徒にとつて科目選択幅のある教育課程編成に取り組む必要がある。 ○外国語科に新たな学校設定科目を教育課程に位置づけることができた。今後もD Xハイスクール事業や情報教育プログラム、国際理解教育プログラムを発展させる必要がある。	○生徒による授業アンケートなどを活用して教科指導の内容を検証し、授業改善に取り組む。 ○4年間の目標を教育課程に反映させ、単位制やセメスター制を活用しながら選択科目を精査する。 ○策定したプログラムを教育課程編成に反映させることが必要である。また、国際理解教育の向上を図るよう、留学生の受け入れ体制についてさらに検討していく。
2	生徒指導・支援	①生徒一人ひとりの豊かな人間性を育み、社会性を身に付ける学校行事の実施 ②生徒理解に基づく生徒指導や支援、教育相談体制の確立	①各学校行事の目的と開催時期の整理 ②生徒支援体制の見直しと整理	①学校行事の目的・目標の明示化 ②各年次、S C、S S W等の連携体制の見直し	①方策を踏まえた、年間行事計画（概要を含む）が作成できたか ②退学者、生徒指導件数が減少したか。	①体育祭について、近年の温暖化とともに熱中症のリスクを考慮して、アリーナ開催を実現した。コロナ後の学校行事などが通常に戻りつつあり、教育環境も整つた。 ②退学者、生徒指導案件は減少できなかつたが、生徒情報の内容を年次会やグループ会議で共有することで、S C、S S Wにスムーズにつなげることができた。	①学校行事の内容などを洗練させていく必要がある。 ②生徒情報の内容を精査し、現状よりスピーディーにS C、S S Wにつなげられるようにすることで退学者、生徒指導件数の減少を目指す。	体育祭を室内で行ったのは非常に良かった。保護者の反応も好評である。 ものづくりに関連した教育活動について相模原市内の企業と連携することができると良い。	○学校行事について、近年の温暖化等の環境変化を考慮して、教育活動や環境整備の検討が必要である。 ○生徒や保護者と密に連絡をとり退学者情報を共有し、生徒指導件数を減少させる。迅速にS CやS S Wと情報を共有しながら生徒支援に努めることが必要である。	○教育活動全般において行事内容や実施時期など年間を通して全体的に見直す必要がある。 ○年次を問わず生徒情報を共有し必要に応じ連絡機関やS C、S S Wに相談できる体制づくりを構築する。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価（3月21日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①総合産業科としての進路指導目標の策定 ②3年間を見通したキャリア支援計画の策定 ③生徒の希望する進路の実現	①総合産業科として求められる卒業生像の確立 ②3年間の進路計画の策定 ③進路ガイダンスの組織的な計画・実施 ④進路希望の把握と組織的な進路支援体制の確立	①総合産業科としての人材育成の検討 ②3年間の進路指導計画の策定 ③進路ガイダンスの組織的な計画・実施	①総合産業科としての人材育成目標を示すことができたか ②進路行事を体系化して、全職員・生徒・保護者へ発信できたか ③生徒の進路希望が実現できか。	①グランドデザインを改訂し、総合産業科としての人材育成目標を示した。 ②進路ガイダンスを通して、生徒が主体的に思考し表現する機会を設けることができた。 ③各種説明会および面談を適切に実施することができた。 ④進路ガイダンス、模擬試験を計画通り実施することができた。 ⑤生徒の進路希望を概ね実現することができた。	①総合産業科の学びを生かしたキャリア教育について検討する。 ②現実を直視しながら未来をみつめ、可能な限り早い時期に進路実現に向けた意識を持たせるよう指導と支援を実施する。 ③アセスメントの活用法について研究を深めるとともに、生徒・保護者への情報発信について検討する。 ④3年間を見通したキャリア教育を計画し、学校全体として進路指導を継続できる体制を確立する。	進路指導を手厚くしている結果、内定者や進学者も多く大変評価している。生徒の進路実現に向けてぜひ励ましと支援をしてください。 卒業生講話などは、具体的な将来について思い描くことができるので、卒業生に来校していただき講話を聞くことはよいことである。	○進路ガイダンスを充実させて面談指導や模擬試験など計画通り実施することができた。 ○生徒が主体的に進路活動に励み希望通りの進路実現ができるように、総合産業科としての進路指導計画について検討する必要がある。	○生徒ひとり一人に合った進路先に導けるような進路指導計画を構築していく。 ○早い時期から進路についての興味関心をもたせ、3年間を通じたキャリア教育の計画を策定し充実を図る。
4	地域等との協働	①地域の小中学校や自治会など近隣地域との連携 ②学校の情報を広く地域に発信 ③近隣の大学（研究機関・企業）等との連携	①近隣の小中学校や地域との連携行事の開催 ②HPによる情報発信・学校説明会の開催 ③大学等との連携事業（授業等）の開催	①連携行事の開催、ボランティア参加等の実施 ②見る側に立ったHPの見直し ③学校説明会の定期的開催と内容の充実 ④高校開催行事・大学開催行事等への生徒参加、講師派遣等、大学等との連携事業の開催	①連携行事の開催、ボランティア参加等の実施ができたか。 ②HPの更新が適切にできたか。 ③学校説明会の満足度は90%を超えたか。 ④入学後の生徒の満足度は90%を超えたか。 ⑤大学等との連携事業が開催できたか。	①地域行事などに部活動が参加して実施することができた。 ②HPの内容を見直し、各ページを更新することができた。 ③中学校で体験授業講師として参加した。文化祭で個別相談を実施した。学校説明会では部活動見学の日程調整や、進路活動、教育課程についての説明内容を充実させた。 ④大学などと連携を図り短期集中講座を開講することができた。 ⑤部活動による大学行事への参加や課題研究の説明会の大学からの講師派遣の協力を得ることができた。	①コロナで休止していた小中学校を対象とした体験教室の再開に向けて準備をする。またそれに伴う広報活動を実施する。 ②コロナの時期より学校説明会の予約を実施してきたが、予約なしで学校説明会の実施を考えるなど、実施方法について検討を行うことが必要である。 ③大学等との連携の拡大や短期集中講座の実施時期や受講に関する体制づくりの見直しが必要である。	生徒が高校在学中にも大学で様々な体験ができるよう連携を深め、教育活動の活性化を望みます。自治会の行事に生徒が参加することで、にぎやかになってよい。来年度は自治会での催しの企画や運営に携わって欲しい。	○地域と連携した活動を生徒とともに実施することができた。 ○広報活動として学校説明会の開催やHPの見直しやページを更新することができた。 ○高大連携や短期集中講座の実施、教員による中学校での出前体験授業への参加の機会を得ることができた。	○生徒が積極的に地域の行事に関わり企画や運営に携わるように促す。 ○学校説明会や広報活動について内容を精査してさらなる広報活動を強化する。 ○引き続き大学などと連携を図り短期集中講座などの講座開講を目指す。
5	学校管理 学校運営	①事故・不祥事の未然防止と教職員の実践的指導力の向上 ②生徒の防災意識の向上と防災教育の推進、学校の安全管理体制の確立 ③学校行事の目的と実施体制・時期の整理 ④教員の働き方改革、ライフワークバランスの推進	①事故・不祥事ゼロ ②防災教育の実施 ③学校の安全管理体制の点検 ④式典の一層の充実。関係部署との連携を密にし、円滑な行事運営のための環境整備。 ⑤会議の効率化と時間短縮 ⑥グループ間連携の推進による業務集中の緩和	①事故・不祥事防止会議等の開催 ②防災教育の実施 ③学校の安全管理体制の点検 ④式典の一層の充実。関係部署との連携を密にし、円滑な行事運営のための環境整備。 ⑤会議の効率化と時間短縮 ⑥グループ間連携の推進による業務集中の緩和	①事故・不祥事がゼロであったか。 ②防災教育を実施できたか。 ③学校は安全に管理されていたか。 ④防災教育として、大規模災害時を想定した生徒・教員等の学校関係者が連携した訓練等を行うことができたか。 ⑤会議時間（回数）は短縮できたか。 ⑥グループ間の連携は推進できたか。 ⑦時間外勤務の軽減ができたか。	①啓発資料を活用して不祥事防止会議を実施した。 ②防災訓練の集合形態を帰宅後までに想定して実施した。 ③コロナ前の内容に戻し、充実した式典を実施することできた。 ④時間外勤務時間の削減に取り組んだ。 ⑤企画会議等でグループ間の業務内容を共有できた。	①不祥事防止会議などを開催して不祥事の未然防止に努める。 ②防災訓練で集合時間を短縮する対策など検討が必要である。 ③式典運営にはグループ間での連携が必要である。 ④会議時間など減少傾向にあるが、業務効率化に取り組む。 ⑤企画会議等でグループ間の業務内容を共有していく。	全体的に概ね達成できていると思うが、会議などで時間外勤務をすることがなくなるよう働き方改革を進めさせてください。 ワークライフバランスの観点から業務内容の改善に取り組んで欲しい。	○不祥事防止に努め啓発資料を活用して周知した。 ○災害時に対応できるように防災訓練の内容を検討する必要がある。 ○会議前の準備に時間を要しているので改善が必要である。	○風通しの良い職場を心がけ不祥事防止に努める。 ○災害が発生した場合を想定し、授業の中などでも生徒と災害時の対応について情報共有する必要がある。 ○ペーパーレスや資料の事前配布など会議時間の減少や業務の効率化に取り組む。

